

## インフルエンザの新薬「ゾフルーザ」

今季のインフルエンザの流行が、過去最高になったようです。国立感染症研究所によると A 型の H1N1（いわゆる新型）と H3N2（香港型）の 2 種類が流行しています。従って、2 回罹患することもあります。

最近、他院でインフルエンザと診断され、「ゾフルーザ」で翌日解熱、それから 1 週間後に再び発熱したので当院を受診し、またインフルエンザ陽性でした。今回はタミフルを処方しましたが、同じウィルスの再燃なのか、違うタイプの A 型なのかは不明です。

**重篤なインフルエンザ脳症**も 76 例発症しており、10 歳未満が 55 例で 73% を占めています。最近では 3 歳児と 8 歳児が死亡しています。（今季 4 例）予防接種歴に関しては不明です。

さて、**昨年発売された抗インフルエンザの新薬「ゾフルーザ」**を、当院ではほとんどの症例に処方しました。採用した理由は、従来のタミフルは 1 日 2 回を 5 日間服用しますが、「ゾフルーザ」は 1 回のみの服用で済みます。「イナビル」という吸入薬も 1 度の吸入で良いので使いやすかったのですが、うまく吸えない乳幼児には処方できませんでした。今回は 体重 10 kg 以上の乳幼児は錠剤を粉砕して処方しました。但し、とても苦いのでアイスクリームやゼリーなどで包んで服用させるように指導しています。

「ゾフルーザ」の効果は、今のところほとんどの症例で 1～2 日で解熱しており、切れ味は良いように思われます。また当院においては 1 例に不穏状態が発生しましたが、他の薬剤と同様な発生率で特に目立つ

た副作用は今のところ報告はありません。

唯、良いことばかりではありません。一番懸念される点は、**耐性の問題**です。つまり「ゾフルーザ」が効かない耐性株が約 10% に見つかっています。このまま使い続けると次第に効かなくなってくるという訳です。また新薬のため副作用の調査も十分でないために、処方するのを控えるという意見も少なくありません。

医療経済的にもジェネリックのタミフルの値段と比較すると、「ゾフルーザ」は 3 倍ほど高い値段です。1 回吸入薬の「イナビル」がありますが、それとやや同額です。

**最初の抗インフルエンザ薬は 2001 年にタミフルが発売**になり、その後、リレンザ吸入薬、イナビル吸入薬、そして「ゾフルーザ」と追加発売されています。

現時点での使用状況の結果が発表されていますので、参考までに掲載しておきます。

注目すべきは「**薬剤を処方していない**」が約 1/4 を占めていることです。自然経過で良しとする医師がいることです。

（たまなは）

### 12 歳未満の患者が対象

